

メッセージを送ります

全日本遊技事業協同組合連合会
理事長 青松 英和



明けましておめでとうございます。
皆様には旧年中全日遊連の諸活動に対しまして温かいご支援とご理解を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

さて、昨年は政府の大胆な金融政策の実施により各種景気指数は上向いてきましたが、景気の体感指数は未だ横ばいのままというのが多くの人々の発言に表れています。今年は实体经济の面でも景気が上向いていると実感したいというのが人々の強い希望だと思います。

その思いは私たちの業界においても同じであります。しかし私は近年の業界の低迷を世間の景気の悪さにその全ての責任を負わせるには、些か無理があると思っています。その理由は、私たちが社会の動きに合わせて業界を変革する努力を怠ってきたことも業界低迷の大きな要因であると考えからです。戦後六十有余年の間にあらゆる産業、業種が時代の変化や社会の変貌に合わせて大きくその姿を変えていく中で、旧態依然のまま基本的体質を変えることなく発展してきた私たちの業界を社会がそのまま受け入れることは限界に近づいていると強く感じています。

私は今年の漢字一文字というある業界誌の企画で、「機」という字を選びました。「機」という字には「何かを起こすきっかけ、時期」という意味があります。今年こそ業界挙げて業界変革の「機が熟した」年にしなければなりません。決して「機を失した」年にしてはならないのです。

昨今、所謂カジノ法案が喧しい中で、パチンコ・パチスロが身近で手軽な大衆娯楽であることを再認識して、先人の英知に倣い、風営法を遵守することを以てお客様に十分なる出玉感のある遊びを体感していただくことが、ホール営業を健全に永く維持していく上で、正しい選択だと思います。

「機」にはまた別に「織る」という意味もあります。業界大転換の年にあたり、全日遊連は他団体ともしっかりと手を携え、新しい業界像を織りあげていきたいと考えています。

今こそ変革しなければならぬ

一般社団法人 遊技産業健全化推進機構
代表理事 河上 和雄



遊技産業健全化推進機構が検査業務を始めて新年で8年目を迎えました。

当機構は業界から不正を追放するために第三者機関として設立されました。業界の信用とユーザーからの信頼を獲得することが目的でした。

今年度は11月末までに計1453店で立入検査を実施致しました。検査開始以来の検査店舗数は1万7992店に上り、検査台数は実に9万5000台を超えております。相変わらず遊技機等に異常が見つかっております。行政当局に通報するケースがかなりありました。検査業務は軌道に乗り、不正防止の抑止力となるなど着実に成果を上げていると自負しております。

しかし、立入検査受け入れではホール側とのトラブルが未だに絶えません。「立入拒否」に至るケースこそありませんでしたが、極めて悪質な妨害が続いております。ホール団体の皆さんが真剣に不正防止に取り組む気持ちがないのではないかと疑いたくなるような現状です。各ホール団体の皆様には改めて機構設立の意義、何故、立入検査を受け入れるのか、などを徹底することをお願いしておきます。

景気の動向に目を向けてみますと、サラリーマンの年間平均給与は前年に比べ減少するなど景気は回復基調にあるものの市民が実感するまでに至っていない状況のようです。今春には消費税率の引き上げがあり、景気後退が懸念されております。

パチンコ・パチスロの参加人口は3年連続減少です。止めた理由では「費用が負担できなくなった」が最も多くなっていました。業界としてはまず遊技人口・お客さんの数を増やしていくことに全力を挙げなければいけないでしょうし、ホールがお小遣いで遊べる場となるようメーカーも含め、考え直す時期だと思えます。業界が共通の目的に向かって一体となって進んで行けば道は拓けると信じております。

機構も業界の健全化を目指してさらなる努力を続けてまいります。よろしくお願いいたします。よろしくご依頼申し上げます。

機構設立した意義、改めて認識を

日本電動式遊技機工業協同組合
理事長 里見 治



本年を展望致しますと、日本を取り巻く経済情勢については、一昨年に発足した安倍政権の「アベノミクス」効果もあり、少しずつ景気回復傾向にあるものの、現状では、アベノミクス効果が大きく現れている業種と、そうでない業種とのばらつきが見られ、景気が「回復」から「上向き」に転ずるかどうかは、今後の推移が注目されるところであります。また、本年4月からは消費税が5%から8%に引き上げられる一方、年金は段階的に引き下げられるなど、内需拡大の見通しは不透明で遊技業界への影響も懸念されます。

遊技業界については、遊技人口の減少により苦境に立たされております。特に若者のパチンコ・パチスロ離れが顕著で、深刻な問題となっております。

如何にして遊技人口の減少を食い止め、集客数の拡大を図って行くかが、我々遊技業界全体に課せられた共通の課題だと思っております。日電協にとりましては、販売台数は過去5年間右肩上がりでしたが、昨年末までの台数について、その前年と比較してみますとやや厳しい状況となっております。

このような状況を真摯に受け止めるとともに、今後とも、原点である「ファンに喜ばれる遊技機を提供することが使命」であることを十分認識するとともに、常に技術研究を怠らず、若者世代にも受け入れられ実際に足を運んでもらえるような、「高品質」で「優れたゲーム性」を備えた遊技機造りに全力を傾注し、業界全体の発展のために専心努力する所存であります。

併せて、低迷している遊技業界全体の活性化を取り戻すためにも、全体が丸となって規制緩和や運用面での緩和等を訴えていく取り組みを強化していく必要があると思っております。日電協としては、業界全体で適度な射幸心とバラエティ豊かな遊技機を兼ね備える魅力的な遊技機が開発できるよう、引き続き規制緩和等を促す取り組みを強化し、推進していきたいと思っております。

ファン離れ深刻、「高品質」を追求

日本遊技機工業組合
理事長 金沢 全求



2012年の参加人口が1110万人と前年より150万人減少し、引き続きファン離れが進む中、貸玉料の総額は盛り返すという状況で、よりヘビーユーザーへの依存傾向が明らかになりました。業界はまさに危機的な状況であり、早急にぱちんこ遊技機のあり方を見つめ直す時期にあると認識しています。

これまで、ホールは収益が上がるもの、メーカーは売れるものを優先してきたことなど、お互いの立場を優先しぱちんこ離れに明確な対策がされてこなかった結果、多くのファンを減少させた事を重く受け止める必要があります。業界として安心して遊べる遊技環境を整備し、社会的な役割を重視し国民の理解を得ることが重要であると考えています。その具体的方策の一つとして、(社)日本遊技関連事業協会が進める「遊技産業活性化プロジェクト」においてホールとメーカーが一緒になって市場の動向やトレンドを分析しながら具体的に遊技機の仕様に反映し提供出来るよう、真剣に取り組んでいます。

また、業界の健全化の一環として、ぱちんこ遊技へののめり込み防止対策としてファンに対する広報、啓発活動を推進して参ります。不正防止につきましては、引き続きより不正されにくく、かつ、不正行為を発見しやすい遊技機づくりに努め、セキュリティ向上に取り組んで参ります。

また、ECO遊技機につきましては、セキュリティを重点に環境問題への対応、コスト面の改善、防火安全上の問題点の改善等、現状の業界の問題を解決する方策の一つとして、説明会などを通じて関係団体のご理解を得ながら丁寧に今後も進めて参りたいと考えています。業界に携わるメーカー、ホール、周辺機器を含めた総意と力を結集しなければ成功はありません。その力で、ファンの皆さんに喜んで頂ける射幸性を抑えた多様な遊技機が実現出来ると考えており、業界の活性化に繋がるものとして今後も強力に推進して参ります。

国民の理解を得られる遊技機作り

メッセージを送ります

回胴式遊技機商業協同組合
理事長 伊豆 正則



当組合は平成6年、「回胴式遊技機販売商業会」として発足し、その後、平成10年には、「回胴式遊技機商業協同組合」として法人格を取得し、おかげさまで今年で創立20周年を迎えることとなりました。これもひとえに皆様方の日頃のご理解、ご支援の賜と深く感謝申し上げます。

この大きな節目に当たり、今年の5月27日には、組合大会と同時に、記念事業として「20周年記念式典」及び「祝賀会」の開催を計画しております。これまでの20年を基礎として、回胴遊商の未来に向けて、この記念事業を意義あるものにして行きたいと考えております。

私たちの業界にまさに今、時代の変化とともに変わらなければならない時期を迎えています。私は、ここ数年、一年のキーワードを一字に託して年頭所感とさせていただいております。昨年は、日々の問題を解決するためには改善が必要であり、また、大きくは業界全体の改革も含めて、「改」（あらためる）と書かせていただきました。

平成26年の年頭に当たっては、この「改」を押し進めながら、もう一步踏み込んだ視点から、「整」（ととのえる）の一字で表現したいと思っております。

業界の信頼回復、繁栄を目指してやるべきことは沢山あります。我々が担うべき健全な流通の環境整備、遊技・遊技機・遊技場の環境整備など、明確なビジョンを構築し、今こそ業界の将来に向かって「整」える時がきていると思います。そのためには勇気を持ち、リスクを恐れず我欲を捨てて行動するしかありません。

私たちには、パチンコ・パチスロ産業の明日のために果たす責任がある、ということを自覚し、変化に適応し、更なる信頼される業界繁栄のため、与えられた信頼に感謝しながら、誇りと責任を持って頑張ってまいりますので、皆様方の多大な協力と深いご理解を賜りますようお願い申し上げます。最後に、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

20周年、ビジョンを「整」えるとき

全国遊技機商業協同組合連合会
会長 中村 昌勇



皆様におかれましては、益々のご健勝と輝かしい新春をお迎えのことと、心よりお慶びを申し上げます。

昨年は2020年のオリンピックが東京で開催されることが決定致しました。今後、様々な業界が経済的な相乗効果を期待出来るとの憶測が飛び、五輪の決定が決まると日本中が歓喜に沸いておりました。

また、カジノ法案の行方もオリンピック開催に向けて追い風になっており、6年先を踏まえての対応に業界が一致団結して取り組んでいかなければならない時期に来ております。

私ども全商協といたしましては、業界の発展と健全な中古機流通事業を守っていく為に委員会制度の見直しや中古機流通に関する取組みをしなければなりません。

昨年は委員会組織の大幅な見直しを行い、中古機流通事業のすべてを機械流通委員会、また災害復興支援や地域ボランティア活動など社会貢献に取り組む活動を社会貢献委員会と2つの委員会に集約、今後の諸問題に取り組んでいく事となりました。

機械流通委員会では、回胴遊商との合意により中古機売買の専用サイトを年度内に立ち上げることとなりました。また、これに関連して運送業者による遊技機運送の共同事業化、インターネット上での遊技機の売買取引における新しいスキームの導入を図るなど、組合員同士の取引において、より安心で安全な中古遊技機を提供すべく取り組んでおります。

その他、所属する遊技機取扱主任者のさらなるスキルアップのために、様々な研修会等を開催し、教育・啓蒙に取り組んで参ります。社会貢献委員会としましては、全商協とその傘下の地区遊商が東日本大震災被災地支援や社会福祉事業のサポートなど、様々な活動に取り組んでおります。ぜひ今年も皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

安心安全へ新たなスキーム導入

遊技場自動補給装置工業組合
理事長 梁川 誠市



新年明けましておめでとうございます。
皆様方には益々ご健勝で輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

我が国の経済は、デフレ脱却の兆しも見え始め、景気は緩やかに回復しつつあるなかで、今後の海外景気の動向によっては不安定な部分もあるのが現状です。

また、この春には消費増税を控えており、各企業や個人に対する経済状況の先行きも依然として懸念されることには変わりありません。

大震災からの復興の加速化も含めまして、一日も早い経済の立て直しを待ち望むところであります。

一方、業界内に目を向けますと、先ごろ発表されましたレジャー白書によれば、パチンコ参加人口は前年比150万人減の1,110万人と過去最低の数値を続け、この2年間で約560万人もの参加人口を失っております。

昨今取り沙汰されている若年層の減少に加えて、主力となる世代の離脱傾向も危惧される現実には、業界全体で早急に取り組まなければならない最大の懸案事項であると考えます。

それには、ライトユーザーが身近で手軽な娯楽として楽しんで頂けるような環境整備が必要であるとともに、ライトユーザーの取り込みによって社会に認めて頂ける事に繋がるのではないかと考えております。

我々設備機器の施工件数につきましても、ここ数年の低迷期から脱出するにはまだまだ厳しい局面に立たされておりますが、本年こそ業界全体で危機を乗り越えるための明確なる方向性を見つけ出し、我々設備機器メーカーもそれに対して少しでも貢献できるような努力を参る所存です。

身近で手軽な大衆娯楽の原点を見つめ直すとともに、幅広いファンに指示される業界になりますよう祈念致します。組合員総意のもと、積極的にご協力させて頂く所存でございますので、本年もより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

「身近な手軽さ」へ明確な方向性

一般社団法人 遊技場自動サービス機工業会
理事長 古宮 重雄



新年明けましておめでとうございます。

皆様には輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、安倍晋三首相が進めるアベノミクス(三本の矢)経済政策により一定の経済活性化が図られ、次の一手が期待されるところとなりました。しかしながら、現在の景況が消費税増税前の駆け込み需要に支えられているとの見方もあり、今後の安倍政権の政策に注目が集まるところとなっています。

昨年の周辺機器においては、大きな話題や喫緊の課題はなく平穏無事に一年が過ぎたものの、一方で喜ぶべき事は何もなく規模縮小という大変慮すべき状況でありました。

昨年10月発表のレジャー白書2013年によると、パチンコ市場規模は9年ぶりに微増となるも参加人口は一割以上減少するなど非常に厳しい実態が報告されました。

当業界における周辺機器の導入は遊技台の入替え工事等に伴って計画されることが多く、周辺機器の販売状況は、設備工事件数が前年比微減ではあったものの中古機導入を希望されるケースが多々あり、周辺業界にとっては厳しい状況が続きました。

本年は、周辺機器業界に明るい兆しが戻ることを希望するところでありますが、4月の消費税増税、新規格の遊技機に関連する動きなど、先行き不透明なところもあります。当会といたしましては、業界内外の諸環境を注視しつつ、主たる事業に育ってきた特許取扱事業を一層進展させること、貯玉システムメーカー加盟団体として貯玉補償制度適正運用に協力させていただくことなどを中心に活動を展開し業界発展のために尽力致したく存じます。

最後に、皆様からの一層のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のますますのご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

特許取扱事業と貯玉運用の協力

メッセージを送ります

一般社団法人 日本遊技産業経営者同友会
代表理事 松田 高志



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、「アベノミクス」の大号令のもと長らく続いたデフレ不況からの脱却に向け、日本経済が少しずつ重い腰を上げ始め、2020年の東京オリンピックの決定もあり、国民が未来について再び語り始めた年でありました。

我々同友会は、3年目となる被災地復興支援活動を積極的に推進し、宮城県南三陸町でのボランティア活動に201名を派遣(3年間の累計762名)したほか、女子プロレス興行や地元のお祭りへのブース出展等様々な形での復興支援を行ってまいりました。

また会員企業の、人材育成を中心とした営業力強化に取り組み、人事交流や店長交流会等、独自のプログラムを発展的に継続してまいりました。

しかしパチンコ・パチスロ産業を見渡しますと、ファン減少に歯止めは掛からず、業界存亡の危機からは未だ脱せずにあります。そのような中、消費税増税にかかわる対策や、ECO遊技機にかかわる対応等、山積する重要課題の解決は、業界の未来を左右する一大事であると考えます。ホール駐車場におけるこどもの車内放置事故を業界全体の取組で未然に防げたように、ホール5団体はもとより21世紀会全体の知恵と力を結集し、国民目線に立った業界の健全な発展と未来を切り拓いていかなくてはなりません。

今年10月、同友会は設立20周年を迎えます。

パチンコ・パチスロ産業が、国民に愛される真の大衆娯楽として健全に発展し支持されるため、「創立の熱き志とともに、未来へ 同友会」をテーマとして掲げ、業界団体としての責任と役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。

本年も皆様のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、皆様にとって良い年になりますよう心よりお祈り申し上げます。

「創立の熱き志とともに」20周年

遊技場メダル自動補給装置工業会
理事長 大泉 政治



日遊協加盟の皆様には、健やかで輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

また、昨年中、遊技場メダル自動補給装置工業会に賜りました多大なご支援、ご協力、ご愛顧に対しまして衷心から感謝を申し上げます次第でございます。

さて昨年の日本経済は、政権交代後、アベノミクス政策等により円安、株高基調により回復の兆しが見え、積年の課題であったデフレからの脱却に向かっているところですが、消費増税や外交問題など日本経済に大きな影響を与える問題が山積しており、予断が許されない状況にあります。

このような経済情勢の中、遊技業界では「遊技参加人口の減少、特に若者の減少」が顕著になり、従来客の復帰、若年層・新規参加者の掘り起こしが喫緊の課題となっています。

各メーカーは国民の大衆娯楽であるパチンコ・パチスロ産業をより活性化させ、国民に安心して遊べ、信頼を得るため、コンテンツ力とともにゲーム性に富みしかもバリエーション豊富な遊技機開発に取り組み、幅広い客のニーズに応えるため最善の努力を図りました。

また、ホール企業にあってもタバコの煙対策や騒音対策等による店内環境の改善及び従業員との接遇方法の改善等により、快適な遊技空間を創生して集客力を高めているなど、業界が一丸となって課題に取り組んでいます。

私ども遊技場メダル自動補給装置工業会にあっても、遊技参加人口の減少に歯止めをかけ、以前のような活気にあふれた遊技業界にするため、ホールの快適な空間創りの一翼を担います。メダル自動補給・回収装置等の静音対策と併せて安価で耐久性に優れた製品を供給してコストダウンを図り、経費節減対策に寄与するため、メダル自動補給器具等の開発改善に積極的に取り組み、皆様と共に健全な業界発展のために最善の努力をしてみたいと考えている次第でございます。

快適なホール空間へ一翼を担う

一般社団法人 パチンコ・チェーンストア協会
代表理事 金本 朝樹



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、弊協会活動に多大なるご支援、ご指導を賜りましたこと、厚く感謝を申し上げます。

昨年は9月8日に2020年東京オリンピックの開催が決定し、日本が明るい未来に向けて再スタートを切る一年となりました。

遊技客の減少、消費税率引き上げ、ECO遊技機開発など、業界内や業界を取り巻く環境は依然として課題が山積しておりますが、昨年からの明るい未来に向けての流れを受け、明るい一年としていきたいと考えております。

さて、弊協会が平成14年3月25日に設立された際、二つの事業目的を掲げました。一つが株式公開で、二つめが遊技産業新法の立法化です。一つめの株式公開の夢は、平成24年8月6日に弊協会正会員企業のホールディングス会社により、香港証券取引所メインボードにおいて実現いたしました。弊協会では、企業の健全化、ひいては業界の社会的地位向上につながる株式公開企業が續くよう、株式公開を推進し、情熱ある企業には惜みずにご協力をさせていただきたいと考えております。

ご承知の通り、二つめの遊技産業新法の立法化はまだ実現していません。しかし、オリンピック開催に合わせて、大きな経済波及効果を見込めるカジノが現実味を帯びてきており、その議論の中でパチンコやパチンコに関する法律にも大きな注目が集まることが予想されます。

これをチャンスと捉え、国民的な議論において、パチンコが国民の皆様から信頼され、支持されるように、業界内で議論を始める必要性を感じております。そして、パチンコが安心して、気軽に遊技が出来る大衆娯楽となるために、公平で透明性が高く、分かりやすい仕組みや法律が必要であり、その検討を前向きに進めるべきだと考えております。

明るい未来に向けて再スタートを切った日本に合わせて、弊協会では上記の想いをお伝えし、大きな視点から皆様と協力して、進取果敢に行動をして参る所存です。

五輪、カジノを好機ととらえよう

一般社団法人 余暇環境整備推進協議会
代表理事 笠井 聡夫



明けましておめでとうございます。皆様にはつがなく明るい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中、当協議会に賜りましたご指導、ご支援に対しまして厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年はアベノミクス効果による円安や株高などに牽引されて景況感が大きく好転し、徐々に消費拡大傾向が顕著となりました。2020年の東京オリンピックの決定はその経済効果の期待とともに国民的な慶事でありました。他方、本年は消費税引き上げが決まっており、せつかくのこうした上昇景気にどのような影響が出るか懸念される所です。とくにホール企業にとっては消費税の転嫁で営業利益が押し下げられ、ダメージ必至とみられ、ホール団体間でこの対策にたびたび協議を重ねてきた所です。ホール企業の苦境は川上のメーカーにも波及しかねず、状況によっては業界にとって厳しい試練の年となることも覚悟して臨まざるを得ないことが危惧されます。こうした厳しい年を乗り越えるためには個別企業の努力に加えて業界各団体あがっての有効適切な対策と連携が不可欠と存ずる次第であります。

申し上げるまでもなく、パチンコをはじめ娯楽産業はファンはもとより広く国民の理解と支持が基盤であります。昨年は記録的な猛暑が続きましたが、そうした中でとかく厳しい業界批判の元となっていた幼児の車内放置死亡事故を6年ぶりに皆無にすることができました。これは年初からのホール企業、団体総ぐるみの努力の賜物であり、従業員各位の汗の結集によるものであって、快挙であります。パチンコ遊技は大衆娯楽の雄であり、老若男女、1千万人のファンが楽しみ、ストレスを解消する癒し産業であります。当協議会はそうした自覚と責任を新たに、今後ともファンと国民の要望に応え、業界の環境整備に真摯に取り組み、ファンと国民の一層のご理解ご賛同を得られるよう精進してまいる所存であります。

試練の年、有効適切な対策と連携

新年を迎え心からの

メッセージを送ります

一般社団法人 電子認証システム協議会
代表理事 広瀬 清



謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、平素よりのご厚情に対しまして、心より御礼申し上げます。

昨年9月に認証協は、創立10周年を迎えることができました。これもひとえに、クリアシステムをご理解・ご利用いただきました皆様方のおかげだと、加盟社員一同感謝いたしております。

認証協は、インのクリアを目的に設立いたしました団体ですが、昨年10月には加盟店舗数1,000店舗を達成し、業界を取り巻く厳しい状況の中、多くのホール様よりご支持をいただいております。

本年4月には消費税率が改定されますが、当協議会は設立時より大きな特長の一つとして、消費税率改定時に新たな設備投資なしに、個数調整方式による消費税対応ができるというシステムを構築してまいりました。来年10月には、再度改定が予定されております。ホール関係者の皆様方には、ランニングコストの低減と合わせて是非ご一考していただければと思います。

今、業界は遊技人口の減少傾向に歯止めがかからないという、非常に大きな問題を抱えております。ここで遊技業界が丸となり参加人口を増加傾向に向けるためには、いろいろな施策があると思われませんが、大きなポイントとなるのが、新しいタイプの遊技機が市場に出てくることであり、お客様にとって明らかにパチンコが変わったなと感じていただくことが一番大切なのだと思います。

今までも新しいタイプの遊技機が出てきたことで、復活させてきた歴史があると、先人より聞き及んでまいりました。大衆娯楽への回帰は、封入式という強いインパクトのある構造上の変化も含め、新しいタイプの遊技性を持ったECO遊技機に大きく期待するところであります。

当協議会も、ECO遊技機に接続するECOユニットの部分で積極的な協力をさせていただき、一日も早く市場にだせるように推進してまいります。

人気復活へECO遊技機に協力

一般社団法人 プリペイドシステム協会
理事長 小堀 豊



皆様には、ますますご健勝で、輝かしい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

また、昨年中に当協会に賜りました温かいご支援とご協力に対し、心から厚くお礼申し上げます。

当協会が、「インのクリア」を通してパチンコ業界に貢献すること及び会員各社の相互理解と切磋琢磨を目的として設立され、本年7月には設立10周年目を迎えます。

この間、品質管理の礎となる統一の「貸出インターフェース規約確認書」に基づく(財)保安通信協会の試験に合格したCU(カードユニット、メダル等を含む)は388機種を超えるまでになりました。

当協会のCUは、ホールの皆様方がより安心してお使い頂けるよう、また品質保持のため、平成20年8月以降は、従来の検査項目にセキュリティー項目を追加した試験を経て、平成24年度からは、従来の新規試験等に加え、変更試験も行い、提供されています。

また、平成18年からは「インのクリア」の更なる普及のため、パチスロ機等への進出・普及にも努めているほか、最近の低玉貸に対応したCUや計数機能を備えたCUの開発等、業界のニーズに応えたCUの提供にも努めています。その結果、当協会加盟各社のCUは、平成25年10月の段階でパチンコ遊技機の約86%260万台、回胴式遊技機の約57%88万台に使用されております。なお、新たに日工組と協力のもとECOパチ機に対応したユニットシステムの検討を進めています。

更に、「パチンコ・パチスロ産業21世紀会」の一員として、業界振興に少しでも役立ちたいと協会挙げて努力しています。

本年も業界団体の一員として、業界の各種活動に積極的に参加しつつ、お客様方と関係行政機関・諸団体等との意見交換を通じて、プリペイドシステムのあるべき方向を模索しながら、その実現に努めていく所存です。

設立10周年迎えさらにCU強化